

# 成年男子A

2月26日

**濃霧のなかのレースを制した大越龍之介。世界を舞台に戦う経験を見せつける優勝**



3時過ぎになんとか成年男子Aの競技が終了。3時間もの中断を挟んだレースとなった。皮肉にも表彰式の頃は霧も抜けていった

国体前にヨーロッパから帰国しながら、雪質の違いにもしっかりと対応しきった大越選手。レベルの高さを見せつける優勝だった

2位に入った松本選手。「最低限の結果」と胸をなで下ろしたものの、大越選手には大きな差をつけられた悔しいレースとなった

一瞬だけ霧が抜けたときにスタートした武田選手。「上の緩斜面は見えただけ」



大会初日は朝から濃い霧がコース全体を包み、ひどいときには目の前の旗門すら見えない状況が続いた。競技を開始したものの、あまりの視界不良で中断。何度か前走を出して安全を確認しながらも、結局は2時まで天候の回復を待つことになった。なんとか成年男子Aの競技は成立させたものの、予定されていた成年男子C、成年女子Aの競技は翌日に持ち越されることになった。

そんな過酷な状況のレースで勝ったのは、大越龍之介選手。松本勲人選手や武田竜選手など、国内で戦うトップレーサーを完全に押さえきっての優勝は、世界の舞台でより過酷な状況も戦い抜いてきている経験を証明するものと言える。

上位入賞した選手たちが共通して、視界の有無とともに勝負を分けた点として挙げたのが、コース前半の緩斜面の滑り。安定しない雪質のこの緩斜面で、いかにタイムをロスしないかが、翌日以降も鍵となったようだ。



## 伊東秀人の目

**濃霧のなかのタフなレースで得られるものは？**

くすりサッポロ水雪国体の初日を振り返ると「自然相手のスポーツの過酷さを味わった一日」と言ってもよいかもしれない。朝から小雨と濃霧。3旗門先がやっと見える状況が1日中続いた。しかも大会前は硬く締まっていたという斜面も、前々日からの暖かさで雪が緩み、スノーセメントと人力で踏み固めるという作業も要された。そんな悪天候や雪面コンディションのために、競技中に何度も中断。スタートは9時だったが、終了したのは15時過ぎと、6時間にもおよぶレースとなってしまった。

そんな状況のなか、ただでさえ緩急の変化が大きなコースを、限られた視界で滑った選手たちは、斜面状況を目で判断することもむずかしく、何度も中断のなか、集中力も切らさずに本当にがんばったと思う。シーズンに何試合も消化するトップ選手にとっても非常にタフなレースと言えるが、とくにこの大会をメインにめざしてきた選手たちにとっては、天候によって不本意なレースになってしまったかもしれない。しかし、今回の経験を次の練習に活かしてほしい。スキー競技とは自然のなかでの競技であるということ。また、こんな悪条件のなかでも世界の

トップ選手たちは戦ってきた経験を持っているということ。

優勝したのは世界を相手に戦っているナショナルチームメンバーの大越龍之介選手。2位を1秒近く離しての優勝はみごとだ。海外での練習や大会で、精神的にも技術的にも磨かれてきていると、悪条件でのレースから感じさせられた。また緩斜面と急斜面という両極端な斜面変化に対しても、各斜面に合ったポジションから、雪面に優しくコンタクトしていくエッジングは、彼の成長の証と言える。「いつもなら加速するようなターンをめざしているが、今日は減速しないようなターンをめざした」という彼のコメントもそれを物語っている。やはり、どんな状況でも、それに合わせて速さを追求できる技術の引き出しが最終的な強さへとつながる。

現在オリンピック出場のために不在の佐々木明選手、皆川賢太郎選手。そして湯浅直樹選手に続く日本の将来を担う選手たちは、かならずこの成年男子Aのなかにいる。将来の日本チームが強いチームであるためにも、悪条件で滑り切れる技術とタフな精神力を養ってほしい。そしてこのクラスの選手たちの成長こそが、日本のスキー界を牽引してくれるパワーとなるだろう。

### 成年男子A

順位	No.	氏名	県名	所属	タイム
1	18	大越龍之介	北海道	東海大学	1:12.18
2	11	松本勲人	長野	スキースターズ長野	1:13.08
3	17	武田竜	福岡	(株)サンミリオンエージェンシー	1:13.77
4	19	清水大	長野	中央大学	1:13.84
5	15	山科博史	山形	丸光建設工業	1:13.98
6	5	水口雄太	富山	シマヤ(株)	1:14.15
7	2	岡本岳士	茨城	慶應義塾大学	1:14.24
8	3	林健斗	群馬	産林組	1:14.94
9	7	小藤正信	埼玉	早稲田大学	1:15.03
10	9	高橋将也	秋田	専修大学	1:15.32
11	16	渡邊拓也	新潟	日本大学保健体育審議会スキー部	1:15.35
12	39	奈良旭	秋田	東洋大学	1:15.39
13	13	佐々木辰徳	青森	中央大学	1:15.41
14	33	高橋範行	新潟	日本大学	1:15.70
15	23	大竹 耀	新潟	日本体育大学	1:16.15
16	1	高橋昌道	滋賀	立命館大学	1:16.24
17	36	西村 輝	広島	明治大学	1:16.94
18	64	滝口翔平	京都	山代印刷SC	1:17.15
19	59	米田修平	岐阜	日本大学	1:17.52
20	48	三上正人	長野	中央大学	1:17.53
20	43	荒井拓磨	神奈川	シーフェルススキークラブ	1:17.53
22	66	佐渡晃英	広島	中京大学	1:18.02
23	35	長井 遼	秋田	横手スキー連盟	1:18.23
24	65	山本幸臣	福井	日本体育大学	1:18.69
25	80	佐々木栄太郎	宮城	東北福祉大学	1:18.71
25	32	桜田一平	岐阜	日本大学	1:18.71
27	41	山尾祐純	宮城	東北学院大学	1:18.74
28	24	山内大希	青森	岩本スキースクール	1:18.82
29	108	大澤 允	福島	東海大学	1:19.15
30	31	北村秀樹	石川	尾口スキークラブ	1:19.42



格の違いを感じさせる滑りを見せてくれた大越龍之介。この安定感をより難度の高いバーンでも出せるようになれば、海外でのステップアップも期待できるはずだ

09/10国内レースシーン総力レポート

Part.4

遠報!  
ファイーストカップ・ジャパンシリーズ  
Far East Cup Japan Series

日程▶3月3日~5日  
会場▶長野県・野沢温泉スキー場  
日程▶3月8日~10日  
会場▶長野県・志賀高原スキー場

# バンクーバー後、 日本アルペンは どこへ向かうのか

世界へと通じる大会として位置づけられるファイーストカップ。今年はいす数が拡大され、中国、韓国、そして日本の3カ国で男女合わせて計28ものレースが開催された(技術系のみ)。その締めくくりとなるジャパンシリーズが、今年も野沢温泉と志賀高原で開催された。その模様をレポートするとともに、バンクーバー後の日本アルペンの行方を探る。

された。そんなファイーストカップの終盤戦となるジャパンシリーズを、日本のトップ選手の戦いぶりを中心にレポートするとともに、バンクーバー後に向けた日本アルペンの趨勢を見てみよう。

## 大越・石井の活躍に感じる 海外経験の重要性

男子戦線を中心になったのは、まがいなく全日本ナショナルチームの大越龍之介だ。今季はワールドカップに計6戦出場。まだ2本目に進出するにはいたっていないが、その可能性を感じさせる滑りを見せており、来季には定着も期待できる。2月の遠征を

終えて帰国し参戦。中国や韓国のシリ

ーズには出場していないため、種目別のタイトルに絡むことはむずかしかったが、6戦中1戦で途中棄権に終わったばかりは、全戦で3位以内に入る安定感を見せた。しかも、タイム差を大きく離して好ポイントを獲得することに成功している。

「ワールドカップやヨーロッパカップでは自分の100%以上の滑りを出さない」と、まだ結果なんて望めない。けれど、その経験を活かして戦うことで、落ち着いてレースに臨むことができている」と語るように、世界の舞台で積んできた経験を感じさせる滑りを見せて

ていた。

そんな大越とともに存在感を示したのが、同じくナショナルチームの石井智也だ。今季はケガからの復帰を果たしたシーズンだったにもかかわらず、ワールドカップへの初出場も果たし、ヨーロッパカップでもポイントを獲得するなど、海外の舞台でもまれた。その成果をしっかりと見せ、野沢温泉ではポイントの獲得にも成功している。しかし、本人は今季の出来には決して満足していない。

「すぐに元の状態に戻れると思っていただけ、やはりケガからの復帰は思っていたよりもむずかしかった。ヨーロッパでは苦しい戦いが続いた。なんとか状態を戻して、シーズン終盤に備えたい」と、多少の焦りにもじませながら話す。このあと大越と石井を含む数名が、学連による海外遠征に出走する予定だという。

最後に種目別タイトルについては、



韓国シリーズまでは種目別ランキングでも上位につけていた吉連一平。しかし、ジャパンシリーズでは上位浮上のさっかけをつかめず、不安定な成績で終わってしまった



志賀高原のSLで16点台の好ポイントを獲得した及川寛寛。しかし、シリーズ最終戦で腰を痛めてリタイヤ。シーズン終盤に戻ってこられるか



石井智也は今季、一昨年10月に負った膝のケガからの復帰を果たした。しかし、元の状態に戻すのに苦しんだように、「つらいシーズンだった」という

男子GS

3月3日 野沢温泉スキー場  
カンダハートライプレジング

順位	No.	氏名	所属	1本目	2本目	合計タイム	P.S.ポイント
1	17	石井智也	東海大学	1:05.84	1:03.15	2:08.99	24.38
2	16	大越龍之介	東海大学	1:05.72	1:03.32	2:09.04	24.72
3	3	武田 竜	サンミリオンスC	1:04.47	1:04.58	2:09.05	24.79
4	6	小松俊馬	東海大学札幌スキークラブ	1:05.50	1:04.28	2:09.78	29.77
5	4	KIM Hyeon-Tae	大韓民国	1:05.29	1:04.57	2:09.86	30.32
6	2	吉越一平	サンミリオンスC	1:05.26	1:04.96	2:10.22	32.77
7	13	奥田祐輔	岐阜白野自転車スキークラブ	1:05.43	1:05.07	2:10.50	34.68
8	5	松本勲人	白馬村スキークラブ	1:05.97	1:04.63	2:10.60	35.36
9	8	伊藤達哉	東海大学	1:06.07	1:04.64	2:10.71	36.11
10	11	中村和司	法政大学	1:07.00	1:03.94	2:10.94	37.68
11	12	及川寛実	中央大学	1:06.75	1:04.67	2:11.62	42.32
12	20	高澤 伸	専修大学	1:07.96	1:03.67	2:11.63	42.39
14	32	小林大祐	立命館大学	1:08.18	1:03.45	2:11.63	42.39
14	18	山科博史	天元谷レーシングクラブ	1:06.71	1:05.04	2:11.75	43.21
15	24	鎌谷 剛	京都産業大学	1:08.58	1:04.22	2:12.80	50.37

男子GS

3月4日 野沢温泉スキー場  
カンダハートライプレジング

1	16	大越龍之介	東海大学	1:07.15	59.23	2:06.38	20.93
2	31	小林大祐	立命館大学	1:07.65	59.76	2:07.41	28.10
3	8	奥田祐輔	岐阜白野自転車スキークラブ	1:07.37	1:00.58	2:07.95	31.86
4	14	KIM Min Sung	大韓民国	1:07.71	1:00.31	2:08.02	32.35
5	7	佐藤 翔	カンダハートライプレジング	1:07.44	1:00.90	2:08.34	34.58
5	4	小松俊馬	東海大学札幌スキークラブ	1:07.77	1:00.57	2:08.34	34.58
7	5	松本勲人	白馬村スキークラブ	1:07.49	1:00.89	2:08.38	34.86
8	15	石井智也	東海大学	1:08.03	1:00.62	2:08.65	36.74
9	1	KIM Hyeon-Tae	大韓民国	1:07.65	1:01.03	2:08.68	36.95
10	2	吉越一平	サンミリオンスC	1:07.57	1:01.17	2:08.74	37.36
11	12	及川寛実	中央大学	1:08.37	1:00.53	2:08.90	38.48
12	11	佐藤 翔	チームJWSC	1:08.95	59.97	2:08.92	38.62
13	35	KYUNG Sung-Hyun	大韓民国	1:08.81	1:00.27	2:09.08	39.73
14	19	高澤 伸	専修大学	1:08.84	1:00.28	2:09.12	40.01
15	6	伊藤達哉	東海大学	1:07.55	1:01.60	2:09.15	40.22

男子SL

3月6日 野沢温泉スキー場  
カンダハートライプレジング

1	18	石井智也	東海大学	54.90	1:02.33	1:57.23	15.24
2	19	KYUNG Sung-Hyun	大韓民国	56.59	1:02.80	1:59.39	26.30
3	6	松本勲人	白馬村スキークラブ	58.78	1:03.71	1:59.49	26.81
4	16	武田 竜	サンミリオンスC	56.90	1:02.75	1:59.65	27.63
5	35	成田秀将	北照高校	57.85	1:01.86	1:59.71	27.93
6	14	清水 大	中央大学	57.18	1:03.11	2:00.29	30.80
7	2	中村和司	法政大学	56.48	1:03.88	2:00.36	31.26
8	32	鹿代谷大希	北照大学短期大学部	56.72	1:04.02	2:00.74	33.20
9	12	小鷹正徳	早稲田大学	55.92	1:04.93	2:00.85	33.77
10	28	関本涼司	東海大学	58.56	1:02.89	2:01.45	36.84
11	8	KIM Min Sung	大韓民国	56.85	1:04.77	2:01.62	37.71
12	10	結城智裕	新庄北高校上校	58.20	1:03.58	2:01.79	38.58
13	15	近藤慎也	中京大学	59.57	1:02.24	2:01.81	38.88
14	44	長谷川秀	北照高校	58.40	1:03.89	2:02.29	41.14
15	7	宮岡史明	北照大学	57.81	1:04.51	2:02.32	41.29

男子SL

3月6日 野沢温泉スキー場  
志賀高原総合スキー場

1	2	KYUNG Sung-Hyun	大韓民国	57.74	57.27	1:55.01	15.09
2	1	及川寛実	中央大学	57.90	57.42	1:55.32	16.71
3	16	大越龍之介	東海大学	59.10	57.01	1:56.11	20.83
4	15	石井智也	東海大学	59.36	57.06	1:56.42	22.45
5	17	作田浩輝	富田スキースポーツ少年団	59.01	57.42	1:56.43	22.50
6	19	KIM Hyeon-Tae	大韓民国	59.09	57.85	1:56.94	25.16
7	32	高澤 伸	専修大学	59.57	57.70	1:57.27	26.28
8	8	宮岡史明	北照大学	59.61	57.70	1:57.31	27.09
9	6	吉越一平	サンミリオンスC	1:00.61	57.67	1:58.28	32.15
10	9	佐藤 翔	カンダハートライプレジング	59.35	59.96	1:59.33	32.41
11	31	鹿代谷大希	北照大学短期大学部	1:00.89	58.10	1:58.99	35.65
12	11	清水 大	中央大学	59.34	59.67	1:59.01	35.96
13	35	成田秀将	北照高校	1:00.14	59.16	1:59.30	37.47
14	13	武田 竜	サンミリオンスC	1:01.45	57.98	1:59.43	38.15
15	39	滝口翔平	山代印刷SC	1:01.88	57.69	1:59.57	38.88

男子SL

3月9日 志賀高原総合スキー場  
志賀高原総合スキー場

1	16	大越龍之介	東海大学	51.90	55.82	1:47.72	14.23
2	2	松本勲人	白馬村スキークラブ	52.02	56.66	1:48.70	19.69
3	4	及川寛実	中央大学	52.73	56.09	1:48.82	20.36
4	5	KYUNG Sung-Hyun	大韓民国	52.26	56.86	1:49.12	20.91
5	7	石井智也	東海大学	52.94	56.61	1:49.55	24.42
6	19	KIM Hyeon-Tae	大韓民国	53.29	56.89	1:50.18	27.93
7	8	武田 竜	サンミリオンスC	53.78	56.51	1:50.29	28.54
8	17	作田浩輝	富田スキースポーツ少年団	53.18	57.15	1:50.33	28.77
9	18	小松俊馬	東海大学札幌スキークラブ	53.98	56.43	1:50.41	29.21
10	3	KIM Woo Sung	大韓民国	53.61	56.97	1:50.59	30.16
11	15	清水 大	中央大学	54.10	56.51	1:50.61	30.33
12	6	佐藤 翔	チームJWSC	53.61	57.09	1:50.70	30.83
13	11	佐藤 翔	カンダハートライプレジング	54.25	56.78	1:51.03	32.67
14	32	鹿代谷大希	北照大学短期大学部	54.82	56.54	1:51.36	34.50
15	12	中村和司	法政大学	53.79	58.10	1:51.89	37.46

男子GS

3月10日 志賀高原総合スキー場  
志賀高原総合スキー場

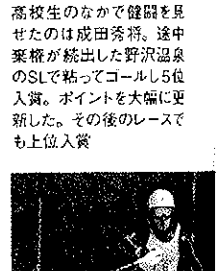
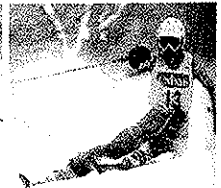
1	10	大越龍之介	東海大学	1:09.69	1:12.16	2:21.85	23.56
2	1	松本勲人	白馬村スキークラブ	1:09.65	1:12.69	2:22.34	26.60
3	20	高澤 伸	専修大学	1:09.60	1:12.82	2:22.42	27.10
4	13	布島 輝	チームJWSC	1:09.19	1:13.41	2:22.60	28.21
5	40	高澤 伸	東海大学	1:09.92	1:13.26	2:23.18	31.81
6	11	奥田祐輔	岐阜白野自転車スキークラブ	1:09.35	1:13.89	2:23.24	32.18
7	4	佐藤 翔	カンダハートライプレジング	1:10.21	1:13.44	2:23.65	34.73
8	2	小松俊馬	東海大学札幌スキークラブ	1:10.31	1:13.46	2:23.77	35.47
9	32	小林大祐	立命館大学	1:10.14	1:13.77	2:23.91	36.34
10	26	林 健斗	上野スキークラブ	1:10.38	1:13.72	2:24.10	37.52
11	18	作田浩輝	富田スキースポーツ少年団	1:10.06	1:14.15	2:24.21	38.20
12	19	滝口翔平	山代印刷SC	1:10.45	1:13.88	2:24.33	38.95
13	29	小鷹正徳	早稲田大学	1:10.04	1:14.32	2:24.36	39.13
14	7	KIM Hyeon-Tae	大韓民国	1:10.35	1:14.04	2:24.39	39.32
15	17	山科博史	天元谷レーシングクラブ	1:10.04	1:14.52	2:24.56	40.37

男子GS種目別

順位	名前	国籍	ポイント
1	松本勲人	日本	447
2	JUNG Dong-Hyun	大韓民国	400
3	KIM Woo-Sung	大韓民国	301
4	KIM Hyeon-Tae	大韓民国	284
5	大越龍之介	日本	280
6	吉越一平	日本	231
7	小松俊馬	日本	230
8	佐藤 翔	日本	218
9	武田 竜	日本	208
10	奥田祐輔	日本	196

男子SL種目別

順位	名前	国籍	ポイント
1	KYUNG Sung-Hyun	大韓民国	426
2	JUNG Dong-Hyun	大韓民国	300
3	及川寛実	日本	285
4	松本勲人	日本	249
5	生田康宏	日本	210
6	吉越一平	日本	207
7	KIM Woo-Sung	大韓民国	201
8	布島 輝	日本	200
9	石井智也	日本	195
10	大越龍之介	日本	160



昨季、自らの弱さでSLの種目別タイトルを取り逃がした松本勲人。その悔しさが原動力となり、今季のGSタイトル獲得につながった。SLでも好調さを見せており、あとはひとつ大きなポイントが欲しいところだ

SLの種目別タイトルを獲得した韓国のスン・ヒュン・キョン。日本の軌らかい雪には戸惑いが見えたが、中国や韓国の硬い雪質では圧倒的な強さを見せてくれた

スラロームは韓国のスン・ヒュン・キョンが獲得。中国と韓国のシリーズで独走を許し、ジャパンシリーズでもとらえることはできなかった。韓国の著しいレベルアップはきっかけで静観できないものと言えらるだろう。また、GSのタイトルは松本勲人が初めて獲得。昨季、わずかな差でスラロームのタイトルを逃しているだけに、その経験と悔しさを活かしての結果だったという。だが、これだけではチーム入りも果たせない。このタイトルを活かせるような結果を残りのシーズンで追い求めていく」ともう一段上をめざす。